

■プレゼンテーションへのコメント

伊 東 剛（日光市観光経済部観光課長、日光市国際交流協会事務局長）

皆さんこんにちは。初めまして、日光市観光課長の伊東と言います。よろしくお願いいたします。本日は日光のインバウンドについて留学生と考えるシンポジウムということで、日光プロジェクトも第6回目になるかと思っておりますけれども、ありがとうございます。毎年お世話になっております。今年はですね、このコロナの状況によりましてシンポジウムのやり方が少し変わっており、ちょっと残念なところではありますけれども、日光市観光課の野口を含めてですけれども、講話と、只今の第2部での参加者の方のコメントということで、拝聴させていただきました。少しコメントをさせて頂きたいと思っておりますけれども、第一部での鈴木先生、また康さんのこれからのインバウンドについてはですね、中国人の買い物、団体から個人にということで、大変産業観光等は、参考になるかなと。日光市はなかなか大企業というものはありませんけれども、例えば日光ならではの、歴史的文化的価値の修復ですとか、そういったものもございまして、そういった技術面を観光に活かせるというのは参考になるかなと。多様なF I T観光に向けても参考になるような講話だったかなと思っております。私どもの野口の方の講話は割愛致しますけれども、3番目の増渕代表については日ごろから大変お世話になっており、この場を借りてお礼申し上げますけれども、アウトドアですね、非常に魅力的な観光コンテンツとしてここ最近是非常に人気が出てきております。それができる自然が日光にはあるというのが、本当に日光の強みかなと。それを今後どう活かしていくかというのはですね、上手く市と協会の方も立ち上げが出来ましたので、それらと連携を図りながら発信を出来ればいいかなと。こんなに外国人に人気があるというのは、当然日本人にも人気がありますけれども、次のインバウンドに向けての1つのコンテンツとしてはすごく参考になる事例かな、という風にして拝聴してございました。あとはですね、第2部についての、今度は過去に参加された学生さんたちのコメントでございまして、1番初めのラハマンさんにつきましては、日光、初めは名前しか知らなかったということですが、当然そうなるかと思っておりますけれども、その中で、看板だったりとか、多言語のものが最近増えてきたというようなコメントもございました。当時と違ってきていることがあるということで、その辺は少しずつではありますけれども、市の方としても力を入れているところではありますので、そういったものが少しでも感じられるようになっていくといいかなという風に思っております。2人目のタマンさんのお話でございまして、やはりタマンさんも、以前より観光地として考えてくれている部分が多いように感じたというようなコメントがございました。また多言語看板も前より改善しているんじゃないかといったところで、この辺は本当に少しずつではあるんですけども、やってきているところが以前よりは目についてきているのかなというように感じております。あと、楽しめる観光地になってきていると思うと言ったところで、これは外国人に限らずではありますけれども、やはり日光市に訪れに来てくれる観光客というのは、多くは日光東照宮が多いですけども、それ以外にもですね、最後にネパールでは山が一番人気があると、自然とそれらをメリットとして利用していくというのがいいんじゃないですか、なんてことでご提案がありました。今回ですね、コロナ禍の中での話をさせていただきますと、緊急事態宣言が出て自粛解除になった後、奥日光に来てくださる方、これは外国人というより日本人ですけども、大変多く感じております。やはりアウトドア、自然というのが一つ、コロナ禍においてはキーワードになってくるかなというところはございます。ただですね、コロナ禍の中での観光というのは、なかなか非常に難しいところがございます。当初は奥日光の自然を求めて山に行く人が多かったんですけども、やはりそのまま帰ってしまうと。なかなかコロナの被害もあって、少し観光のあり方も変わってきているかなと、そのように感じたところもございます。3人目のですね、鈴木さんにつきましては、いろいろご提案を頂きました。キャッシュレスといったところで、先ほど神社のお賽銭は出来るのに買い物はなかなか難しい

といった中では、今回ですね、コロナ禍の中では例えばペイペイでの支払いですとか、非接触型の普及というのが、非常に増えてくるのではないのかなと。市の中でも、そういった取り組みを少しコロナ禍の経済対策の中でもやらせて頂いているところがございますけども、それらは今後の観光に非常に活かせる内容ではないのかなという風に思っております。あと YouTube などでの発信ということで、市としては非常に弱いと言ったところでご指摘を頂きました。そういった中で、今回私どもと致しましても、PRについては日光市の例えばCMだったりだとか、テレビ放映をしたりだとか、ウェブ上、YouTube チャンネルで発信を強化していきたいと、そのように考えてございます。その中では先ほどの県の動画が、非常に再生回数が多いというようなこともございましたけども、その辺の YouTube 広告なんかですね、少し検討させていただいて、日光市を今後発信できればいいかなというように考えております。あとアニメとのコラボもございましたけども、この辺についても少し市としても考えるところがございますので、詳しいところはまだ発信できませんけども、そういったところも含めてですね、今日鈴木さんの提案というのは、非常に私どもとしても参考になって、それらが出来るような方向に検討させていただければなと思います。御三方ともですね、日光に対して以前と比べての、以前の日光と今の日光の対比を話していただいた中で、少しずつではありますけども改善できている部分があればいいかなと、そのように感じております。なかなか一気に進まないところが、非常に大変申し訳なく思うんですけども、行政といたしましても、このコロナ禍の中で出来ることを1つ1つ着実にやっていくことがインバウンド、また国内向けに限らず多くの観光客にとっていい方向に行くのではないかなと感じておりますので、今後も皆さんの日光に対するご意見なんかも頂戴しながら、よりよい観光に向けて進めていければいいかなと考えております。コメントは以上でございます。ありがとうございます。